

沖縄の自然と沖縄本島の水事情

沖縄は160の島々からなる島しょ県で、大きな河川や湖などの水源に恵まれていないことに加えて、降水量は年や季節によって大きく変化するため、水を安定的に確保することが困難な自然環境にあります。

終戦後の1946年(昭和21年)、約51万人だった沖縄県の人口は、本土復帰時の1972年(昭和47年)には約96万人、2021年(令和3年)には約145万人※1を超え、復帰直後と比較すると約1.5倍に増えています。



(写真)国頭村 座津武川
(座津武取水ポンプ場取水口付近)

沖縄の河川は、本土の河川と比較して流域面積が小さく、延長も短いなどの特性があり、安定的に水を確保することが困難な状況にあります。そのため、水量の少ない河川からの取水に努めるなど、安定給水に必要な水源を確保しています。

(注) 水資源賦存量とは、降水量から蒸発散によって失われる量を差し引いた量に、当該地域の面積を乗じた値で、水資源として、理論上人間が最大限利用可能な水の量を表します。地域によって自然条件から利用可能な水の量は異なりますが、その違いを水資源賦存量によって知ることができます。

参考資料 ※1 沖縄県推計人口2021年6月(沖縄県企画部)

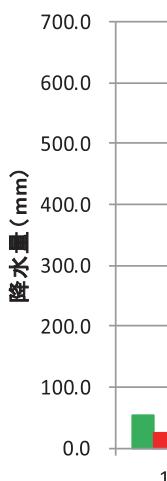
※2 1991~2020年 那覇平均値データ(気象庁)

※3 令和2年度版日本の水資源の現況(国土交通省)

1986~2015年の平均値で、国土交通省水資源部調べ



月別降水量



那覇の月別降水量

